

## 令和2年度 第3回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 令和3年2月24日（水） 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後  
19:30～20:10
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 稲葉 秀一 部会長、大滝 達哉 副部会長、川上 義史 委員、佐々木 修一 委員、  
住谷 晋 専門委員、澁谷 真由美 専門委員、車谷 香織 専門委員  
(宇野 雅樹 委員、小岩 幹 専門委員欠席)  
事務局：五十嵐参事、山中課長補佐、村上主任
4. 会議次第
  - (1) 前回会議の議事録（案）の確認
  - (2) 令和3年度健康推進課関係予算（案）について
  - (3) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

みなさま、こんばんは。

ただ今から、令和2年度第3回地域医療推進部会を開会いたします。

本日は、宇野委員と小岩専門委員から欠席のご連絡がありました。地域医療推進部会、委員 9名中、7名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達しておりますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

#### 【質疑・応答なし】

別になければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、「令和3年度健康推進課関係予算（案）について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

#### ○事務局

令和3年度の健康推進課関係予算（案）につきまして、説明させていただきます。資料は1～2

になります。資料1から説明させていただきます。令和3年度の健康推進課関係予算(案)であります。予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。まず、表の右側に、令和3年度予算を記載しております。この中で、職員給与費へ振替分として、Bと記載している欄があります。こちらにつきましては、令和2年度から、地方公務員法・地方自治法の一部改正により、これまでの嘱託職員等のうち、多くの職員が、会計年度任用職員に移行していることから、担当課で予算措置しておりました、報酬等の予算が、職員給与費として、職員課所管の予算に移行しており、過去と比較のためC欄を設けております。左側の事業区分と、右側の令和3年度予算額につきましては、A欄をご覧くださいと思います。まず、上から、保健衛生総務費が、4億6千791万6千円、そのうち、主なものでは、保健衛生推進費687万円、食・運動改善推進費86万2千円、公衆浴場対策費1千489万円、看護師等養成機関確保対策費8千103万2千円、帯広厚生病院運営費補助事業費2億1千万円、すこやかネット事業費435万6千円などとなっております。

妊婦・乳幼児健康診査費、母子保健相談指導費、心の発達支援事業費、食育推進事業費については、令和2年度より組織再編のため健康推進課関係予算として計上しておりますが、従前より児童育成部会で説明していることから当部会においては、予算額のみお示しすることとさせていただきます。前年度と比較しての、増減の主なものといたしましては、帯広厚生病院運営費補助が、910万円の増となっておりますが、こちらは、特別交付税単価の増により、補助額が増えたものです。

続きまして、夜間急病診療費は、1億5,801万1千円となっております。内訳といたしましては、休日夜間急病センターの管理運営費が、8千147万4千円で、101万8千円の増、在宅当番や二次救急医療などの救急医療対策費が7千653万7千円で、62万円の増となっております。休日夜間急病センター管理運営費が増となっている理由といたしましては、平成29年度から令和3年度の5か年契約となっている中で、医師の給料のベースアップ等により、毎年委託料が増えることを見込んでいるためでございます。なお、令和2年度は患者数の大幅な減のため、補正予算により追加しております。令和3年度予算については、現状ではコロナの影響も不透明なため、通常ベースでの当初予算を計上しております。

続きまして、予防費は、総額で5億9千202万2千円となっており、主なものといたしましては、がん検診・健康診査費1億3千885万7千円、予防接種費3億6千104万5千円、感染症予防費8千848万1千円、健康教育費297万2千円、などとなっております。

増減につきましては、予防接種費につきましては、令和2年10月から定期接種化したロタウイルスワクチンの通年化や、BCGの予防接種を臨時的に集団から個別接種化、HPVワクチン接種者の増を見込み、4千992万3千円の増となっております。

感染症予防費につきましては、インフルエンザ予防接種や高齢者の肺炎球菌予防接種の増を見込み、1千878万7千円の増となっております。

次に、保健福祉センター費として、2千385万2千円を計上しております。こちらは、「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。以上、総事業費は、A欄の歳出予算合計12億4,180万1千円となります。

続きまして、資料2をご覧ください。こちらは、資料1の内訳となります。左側の、保健衛生総務費は、4億6千791万6千円で、医療体制の整備や医療の人材不足への対応のほか、公衆浴場対策、健康まつりや健康づくりのボランティアの養成、育成など市民の保健予防の推進のための予算となっております。右側の、予防費は、5億9千202万2千円で、胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がんの5大がんの検診のほか、各種健康診査、予防接種や感染症予防、結核予防など、疾病の予防、早期発見のための経費と、健康相談、健康教育、訪問指導の経費を計上しております。

中央の夜間急病診療費は、1億5千801万1千円で、休日や夜間の救急医療を確保するものです。帯広市の二次救急当番病院について、管内町村住民の利用割合が約4割を占めている現状となっていることから、その体制維持のため、三次救急同様、十勝全体での支援体制が必要との考えのもと、平成30年度から協議・検討を進めているところです。新型コロナウイルス感染症の影響により、予定どおりの協議進捗が困難な部分もありますが、引き続き、二次救急医療体制の維持確保のため、帯広保健所をはじめ、関係機関と連携しながら、取り組んでまいりたいと考えております。

次に、保健福祉センター費として、2千385万2千円を計上しております。また、本資料には記載しておりませんが、新型コロナウイルスワクチン接種に向けた体制整備及び医療従事者へのワクチン接種については、令和2年度2月補正予算にて令和3年度へ繰越するものとして計上しております。このほか、高齢者や一般市民へのワクチン接種費用については、今後段階的に補正予算として計上する予定となっております。説明は以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

1つ確認ですが、急病センター管理運営費が今年は1.3%増の理由として、当番医師の給料のベースアップというお話がありましたが、これは毎年ベースアップしているということですか。

○事務局

そのようになっております。

●委員

わかりました。歯科医師会の方も休日診療の歯科医師の給料は随分据え置きで、少し前に上げてもらいましたが、それはまた個別で交渉させていただきます。

●部会長

これは出向している医師の給料ではないです。そこにいる夜間の職員の給料ということですか。

●委員

わかりました。それから、この状況の中で例年通りの事業ができないことは多々あるだろうとは思いますが、基本的な予算立ての考え方としては、通常と同じようにできるという想定で予算を組んでいるということによろしいですか。例えば、違うやり方をしたらお金がかからなくなるような場合も考えられるけれども、そういうことは想定せずに、一昨年とほぼ同じ形で事業を全て行えた場合という想定の前算の組み方ということによろしいですか？

○事務局

がん検診等でどうしても密を避けて実施をしているので、今までと同じようにできない部分もありますが、大きな前算の考え方、変更はございません。

●部会長

BCG 接種などはこれまで集団接種でしたが個別接種に変わっています。  
対コロナに関して考慮したものです。

●委員

1歳半と3歳児検診も集団ではなく個別になるかもしれないという打診を受けたのですが、そのこととは関係ないですか。

●事務局

関係はあります。1歳半と3歳児検診は個別で行うというお話もありましたが、来年度につきましては通常どおり集団で継続をするということです。

●委員

小児科も歯科も今まで通りということですね。  
それと、健康まつりはどうなるかまだわかりませんよね。  
一応、行う想定で進めていくということですね。わかりました。

●部会長

あとはいかがでしょうか。

●委員

今回のコロナ禍の状況で、新型コロナウイルスのワクチン接種について、市としてどのような取り組みをしていて、どのような状況なのかということを知りたいのですが、この場でお答えいただけますか。

●部会長

事務局いかがでしょうか。新型コロナウイルスのワクチン接種の件について、どのようなスケジュールで、どのように行うのか。例えば、集団接種なのか、個別接種なのか、とか、そのようなことも含めてということです。

○事務局

医療従事者等については3月中旬頃に接種開始が予定されております。その後、一般市民の高齢者について接種が開始される予定でありますけれども、国の方では4月以降というような話もありました。本日8時から国がスケジュールについての会見を行う予定なので、今の時点では国のスケジュールの考え方が私どもに示されていない状況ではありますけれども、進捗といたしましては、医療機関の協力を受けまして個別接種を中心に考えております。スケジュールはまだお示しすることができませんが、今の想定では3月末にはクーポン券を65歳以上の高齢者の方に発送する予定で進めている状況です。

●委員

ワクチンの接種場所などについては医療機関で行うということで、まだ具体的には決まっていないということですが、例えばクリニックや個人病院など、かかりつけの病院で接種できるというよ

うな体制はまだ整っていないということですか。

○事務局

クリニック、診療所の先生方のご協力を頂けるように、明日クリニックの先生方を対象に、医師会・保健所・市の三者で合同の説明会を開催する予定です。そこで説明をさせていただいて、先生方に、自分の診療所でも実施をします、という手上げをしていただく予定になっております。

●部会長

基本的には帯広市の方から説明があると思いますけれども、ワクチンの接種の方法ですね。どうしたらワクチンが受けられるのかということをも多分、一番気にされていると思います。

基本的には個別接種と考えられているようです。ということは、インフルエンザの時と同じような流れで受けるような体制を考えているというふうに理解してよいのではないのでしょうか。

ただ、どこで受けられるか、どこの医療機関がやります、と言ってくれるかどうかは、ワクチンそのものが非常に扱いにくいワクチンであるということがあるので、まだはっきりとした数が決まっていないということです。

考え方としては通常のインフルエンザのワクチンを打つような形で、市民の皆様が医療機関に相談するような方法をとることができればと。そのためには、ここでやっています、というような内容のチラシが入っていくようなことも帯広市も考えているようなこととなっています。

ただ、あくまでもこれは国が仕切っているもので、4月から始めて9週間で高齢者の方には打ち終えようという方針です。どれくらいの人数になるかということ、高齢者は約4万8千人くらいです。そのうち80%くらいの方が接種を希望されたとすると、3週間で2回打ちます。国がその量のワクチンを配布できないということがわかっているようで、それで今記者会見等をしているようです。ですので、私たちもそのタイムスケジュールに則って、ワクチンを打っていただくように市の皆様と一緒に協議しておりますし、その辺のことについては明日、改めて集まって協議する場を設けていますが、結構大変なことです。

●委員

要望としては、大変厳しいかもしれないが、市民としてはかかりつけの医院の先生に、インフルエンザと同じようにできれば一番かと思えますけれども、それができなければ決まった医療機関でということになるかもしれないということですね。わかりました。

●部会長

あとはいかがでしょうか。

ないようですので、その他に入らせていただきます。

その他に関しまして何か皆様からございますか。なければ事務局の方からお願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、稲葉部会長と調整をして、皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いたします。

●部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。  
本日は、これで閉会といたします。  
お疲れ様でした。